

平安京左京八条二坊九町 発掘調査

調 査 地	京都市下京区油小路通下魚ノ棚下る油小路町 284、286、317-2	
調査期間	平成 30 年 6 月 25 日 ～ 9 月下旬（予定）	
調査面積	約 280㎡	
調査原因	宿泊施設建設	
計画機関	サムティ 株式会社	
調査機関	有限会社 京都平安文化財	http://iseki-haktsu.com

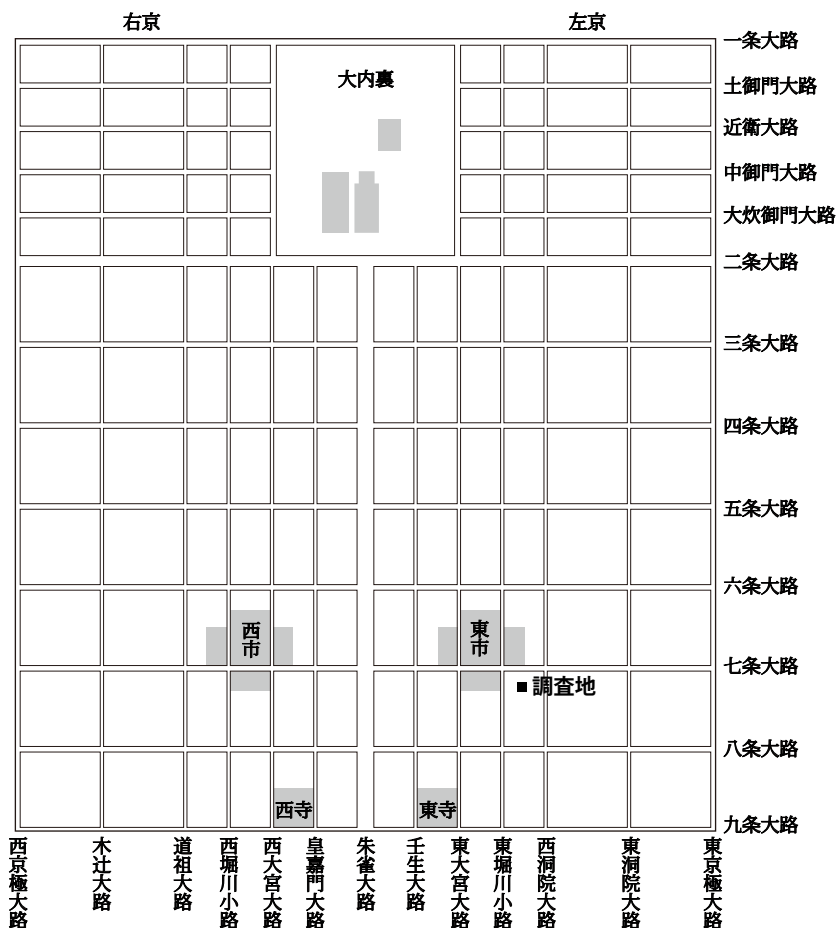
今回の調査地は、平安時代の地点表示では「平安京左京八条二坊九町」にあたります。この地は平安京の「東市」に隣接する場所で、平安時代から鎌倉時代にかけて京内の商工業の中心であった「七条町（しちじょうまち）」にも近いところです。

この調査では、平安時代から江戸時代にいたる多くの遺構・遺物が検出されました。検出した遺構は、井戸・溝・暗渠・柱穴・土坑・墓などです。とくに井戸は、平安～鎌倉時代、室町時代、江戸時代、それに明治から現代にわたる各時代のものがあります。

平安時代の遺物では、緑色の釉薬を掛けた「緑釉陶器（りよくゆうとうき）」や中国から輸入された青磁・白磁、それに瓦類などがあります。鎌倉時代の遺物では、鋳型など鋳造関係のものが

出土しました。鋳型は鏡や刀剣の飾金具を作ったもののあることが注目されます。室町時代の遺物には、生活用品である多量の土器・陶磁器類があります。江戸時代の遺物では、陶磁器のほか江戸時代前期の瓦類の多いことが目立ちます。

今回の調査地あたりは文献的記録があまり無いため、具体的な様相がよくわからない地点でしたが、調査の結果、この地では平安時代から現代までほとんど切れ目無く人々の活動があったことが判明しました。今後この調査の整理・検討を通して、平安京・京都の歴史の変遷の一端を明らかにしたいと思っています。



平安京内の調査地の位置



調査第1面全景（西から）



遺構 71 遺物出土状況



鑄造関係遺物

